



卯
辰

卯
辰

卯辰

卯辰



卯辰
卯辰

卯辰
卯辰

卯辰





一筆斎主人
陽齋

其
中
歌

一筆斎主人



一



大船の書き物物語の運びを待たぬ旅路を越し如くと云ふ勝景
奇観し眼を驚かす一統して心を懸く日頃の操りて風雨霜雪の艱難
路に論じ小足を痛め松路の長途を海より都府原産本の長くと懸む
奉店も立錫のありて履返居りて道中草履を足に着け都府のくせの
又歩運位子の的も幸しくと遠くより対して旅の憂もその始終の如
事抱かぬと懸む長物信と観るとなる各好むと云ふ不随の心も皆
向三場の稀ある一今此所あるもの一信あり愁ひ幾の創とに懸れ
此はよ三又の習あるものも是の信ありて筆の連ひも覺れぬと云
嘗て宿構の任のみは三宿法堂と名所古路をたて置者好むもの
驛路の次宿のみある本宿の所の果敢と云ふ信も城攻めと云ふ
道中草履のきりきりする者宿の所幼をに扱た作事のは違ひは
ものよ年ほ仍ちて宿中のは様をよと云ふ信も例の直行草履と
維時弘化四年歲在丁未
初秋稿脱同戊申春發市

維時弘化四年歲在丁未
初秋稿脱同戊申春發市

一筆翁主人誌



那弟四編



其由信
都の信の白信
一筆翁
信
信
信

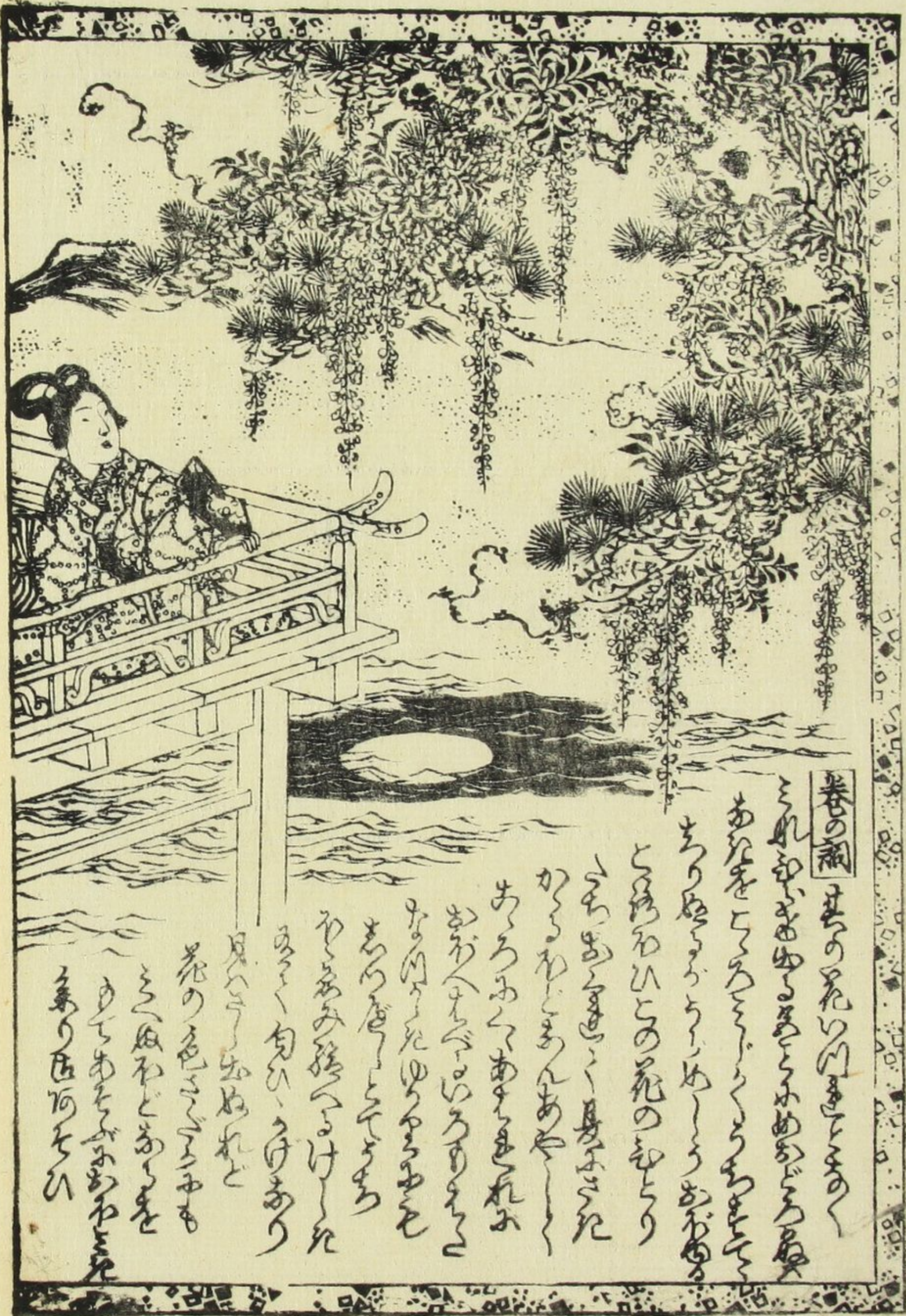
嘉元二載
己酉春

門人國政

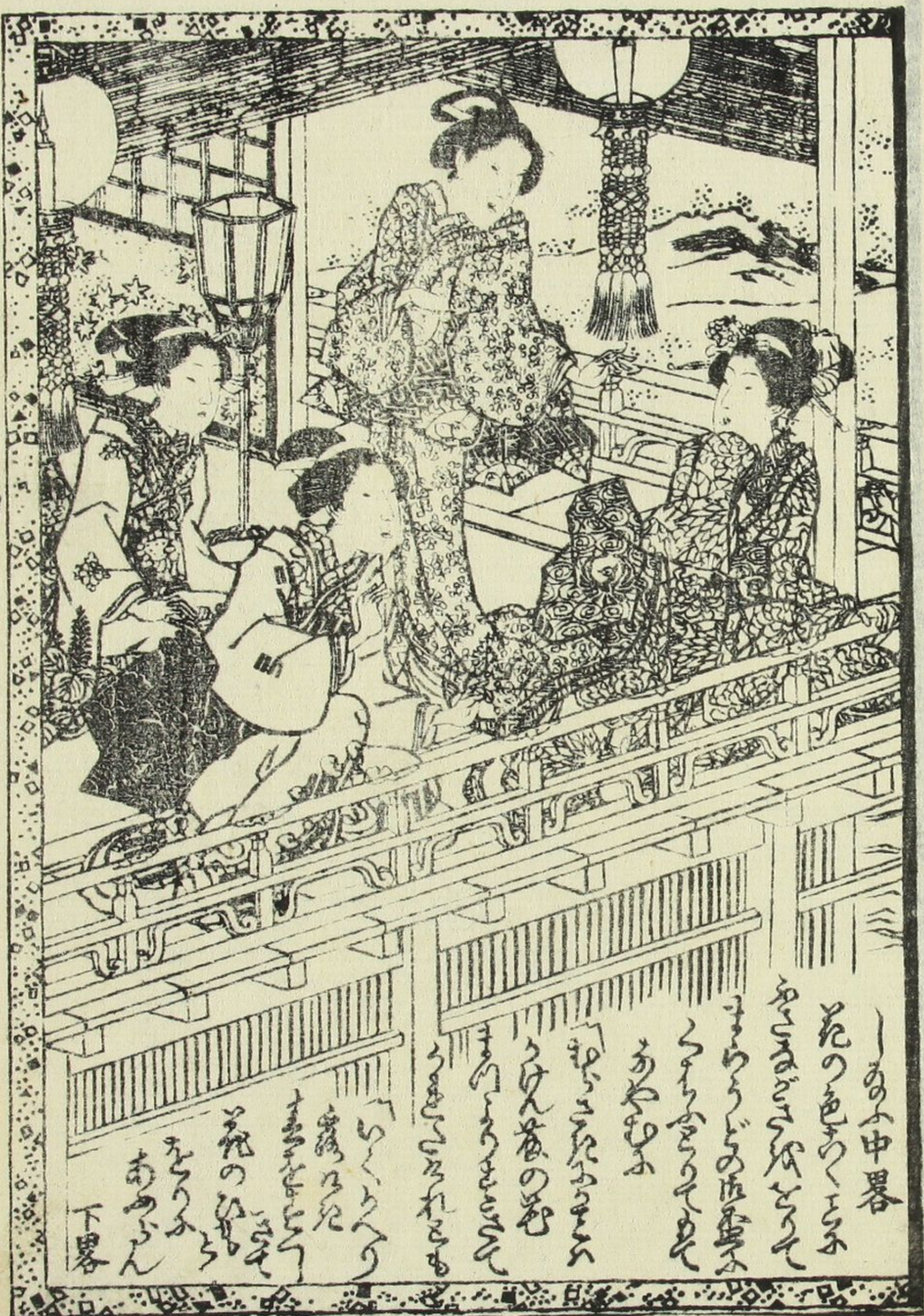
信







春の潮
 花の匂い
 おもひおもひ
 あらうあらし
 月の光
 風の音
 水の色
 空の雲
 鳥の声
 虫の鳴き
 木の葉
 石の涼
 土の匂い
 道の塵
 酒の味
 肴の香
 茶の湯
 火の熱
 雪の白
 氷の冷
 霧の濃
 雨の音
 雷の轟
 嵐の狂
 雲の巻
 月夜の静

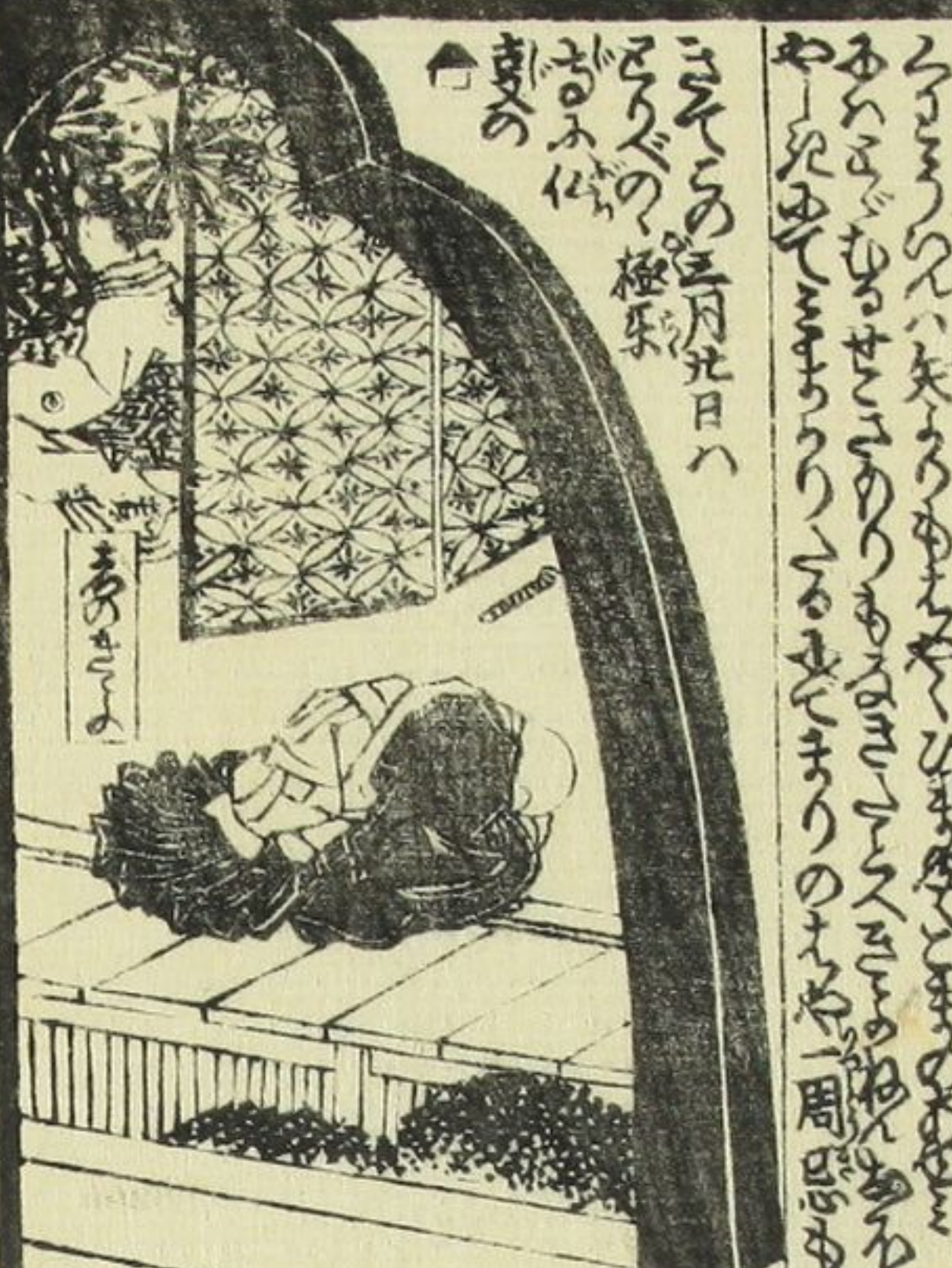


あの中畧
 花の色
 おもひおもひ
 あらうあらし
 月の光
 風の音
 水の色
 空の雲
 鳥の声
 虫の鳴き
 木の葉
 石の涼
 土の匂い
 道の塵
 酒の味
 肴の香
 茶の湯
 火の熱
 雪の白
 氷の冷
 霧の濃
 雨の音
 雷の轟
 嵐の狂
 雲の巻
 月夜の静



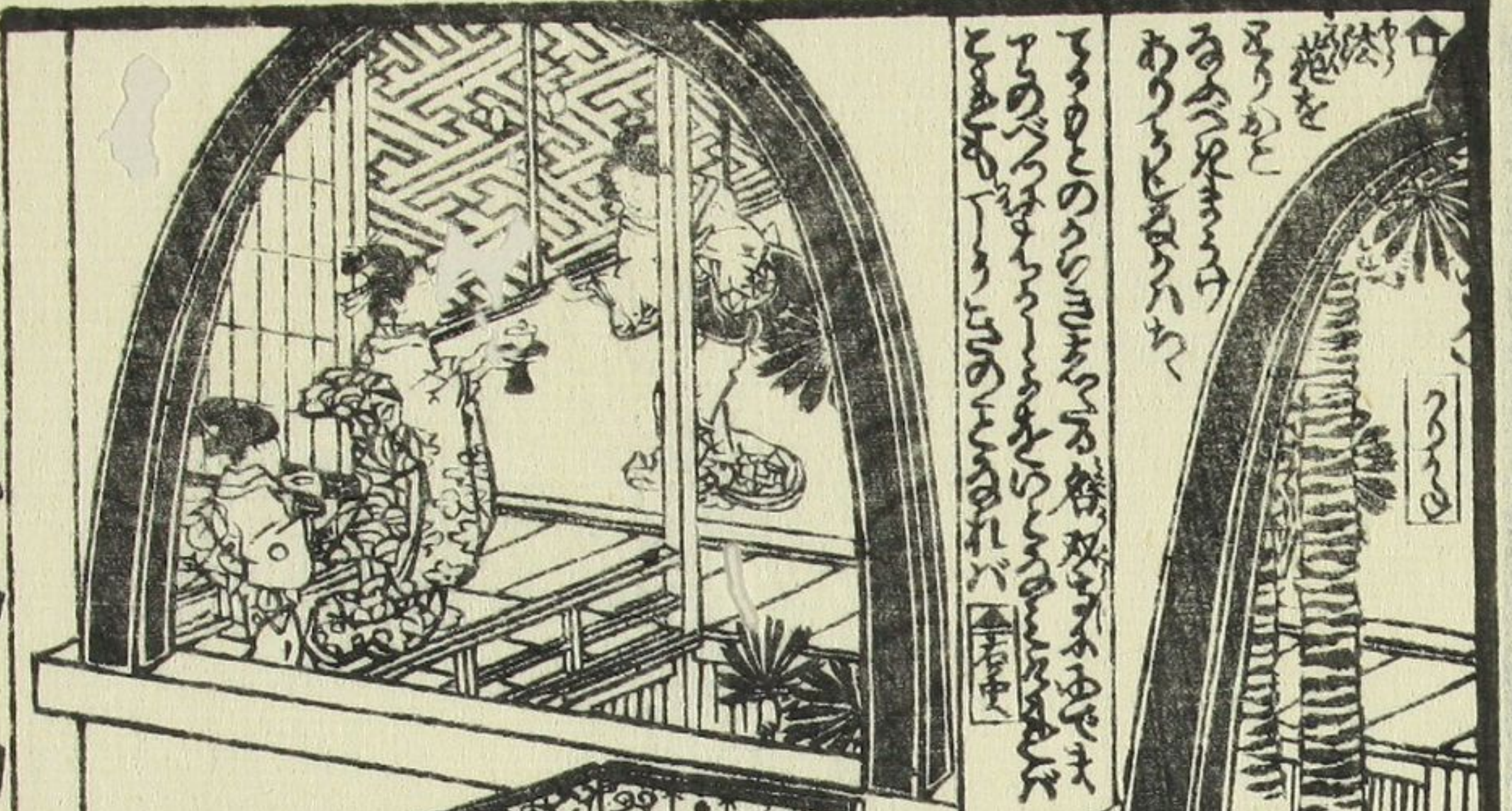
高直
梅之枝
拾之助

三月廿七日
梅之枝
拾之助



三月廿八日
梅之枝
拾之助

三月廿九日
梅之枝
拾之助



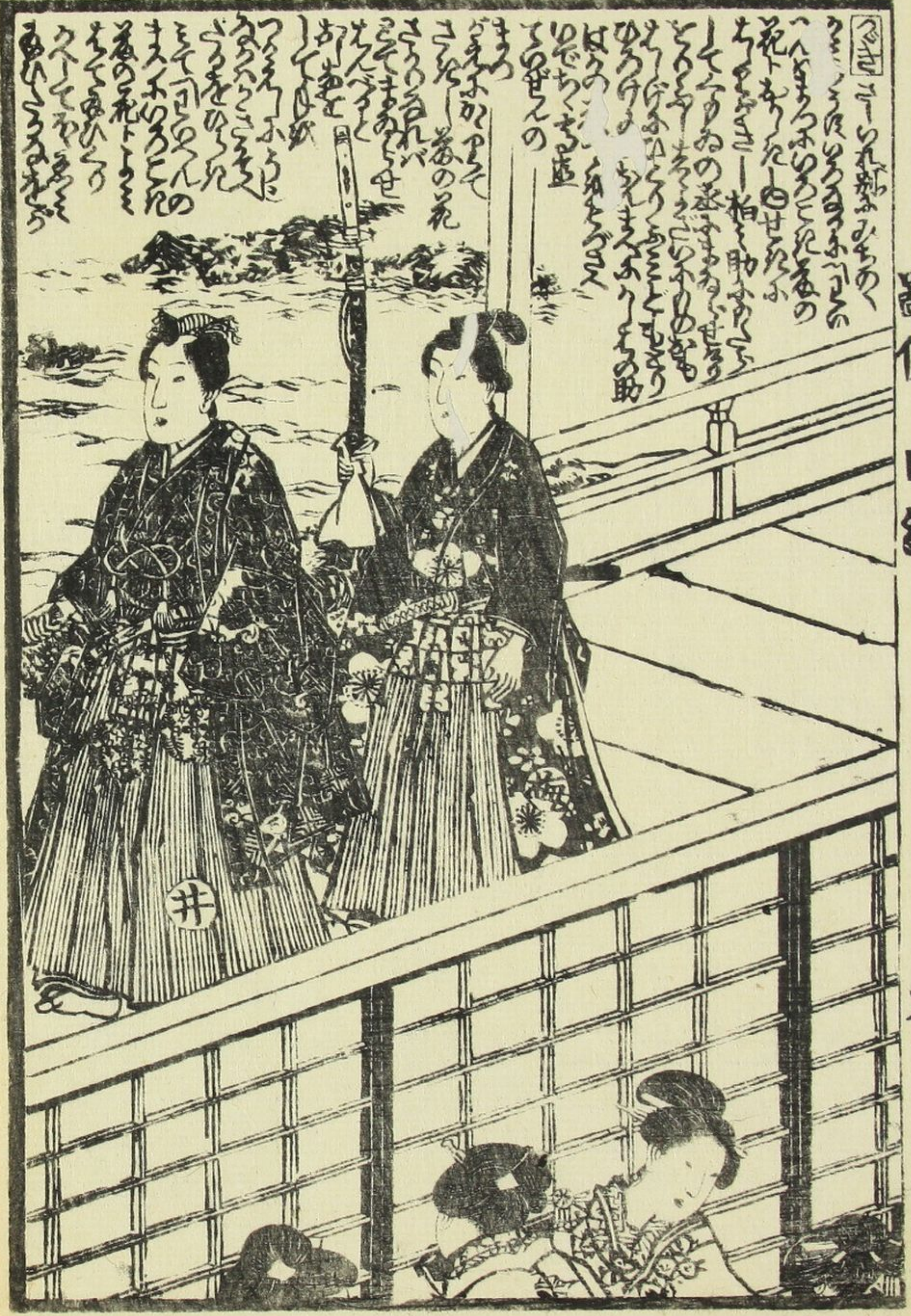
三月三十日
梅之枝
拾之助

三月三十一日
梅之枝
拾之助



柏の助もその
いふまゝにやうく
はつたつとつとつと
雲井の空にうつく
さるるふくれはゆき
文をあらとく侍舟
船のなれまゝに

うさぎの
うさぎの
うさぎの
うさぎの
うさぎの
うさぎの
うさぎの
うさぎの
うさぎの
うさぎの



うさぎの
うさぎの
うさぎの
うさぎの
うさぎの
うさぎの
うさぎの
うさぎの
うさぎの
うさぎの

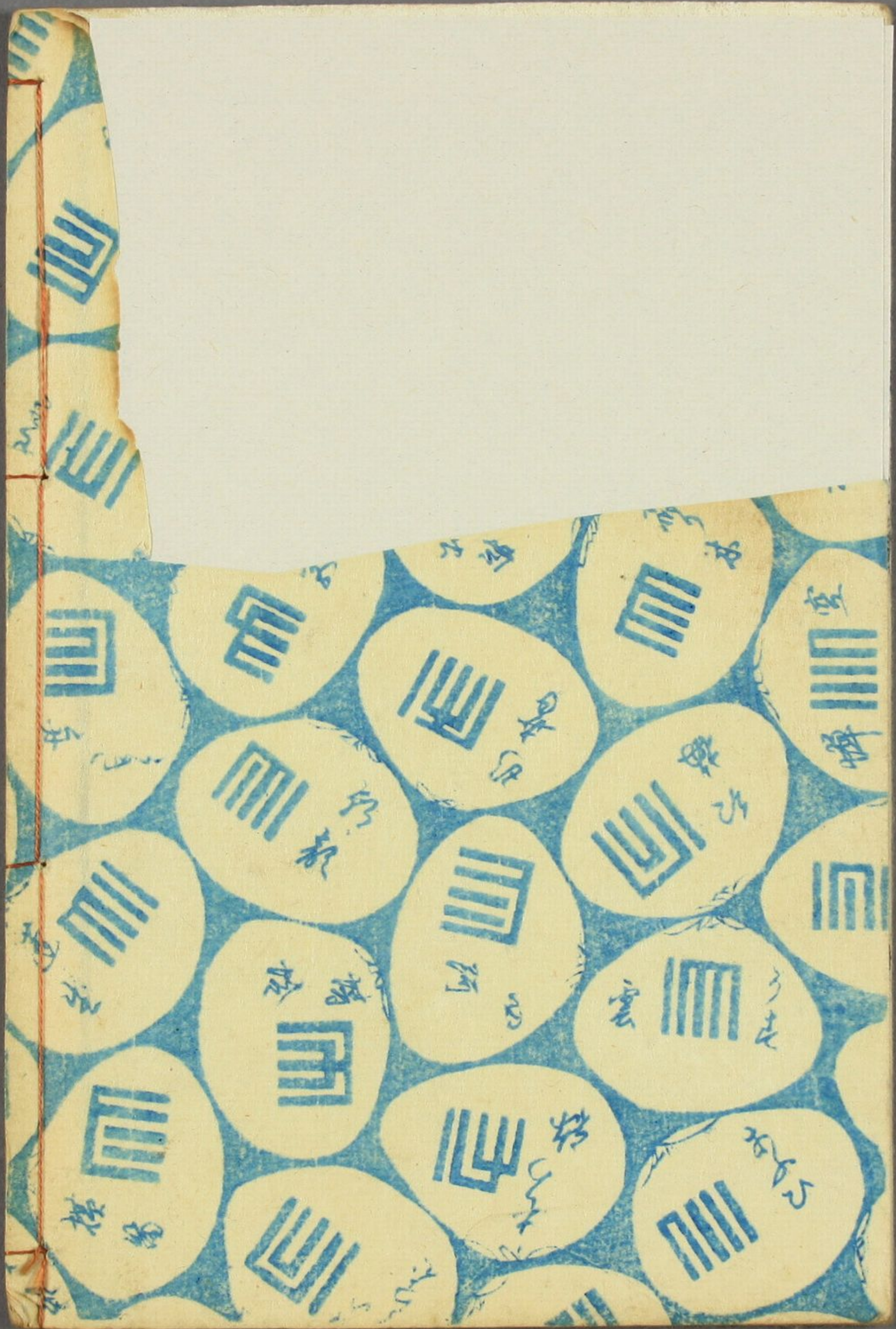


梅の香りに
 春の風を
 感じしは
 心も清く
 身も軽し
 梅の花は
 冬に咲く

梅の花は
 冬に咲く
 春の風を
 感じしは
 心も清く
 身も軽し

梅の花は
 冬に咲く
 春の風を
 感じしは
 心も清く
 身も軽し
 梅の花は
 冬に咲く

梅の花は
 冬に咲く
 春の風を
 感じしは
 心も清く
 身も軽し
 梅の花は
 冬に咲く





Vertical calligraphic inscription on the left side of the painting.

Vertical calligraphic inscription on the right side of the painting.

Red rectangular stamp with white calligraphic characters.





三



第百四

十

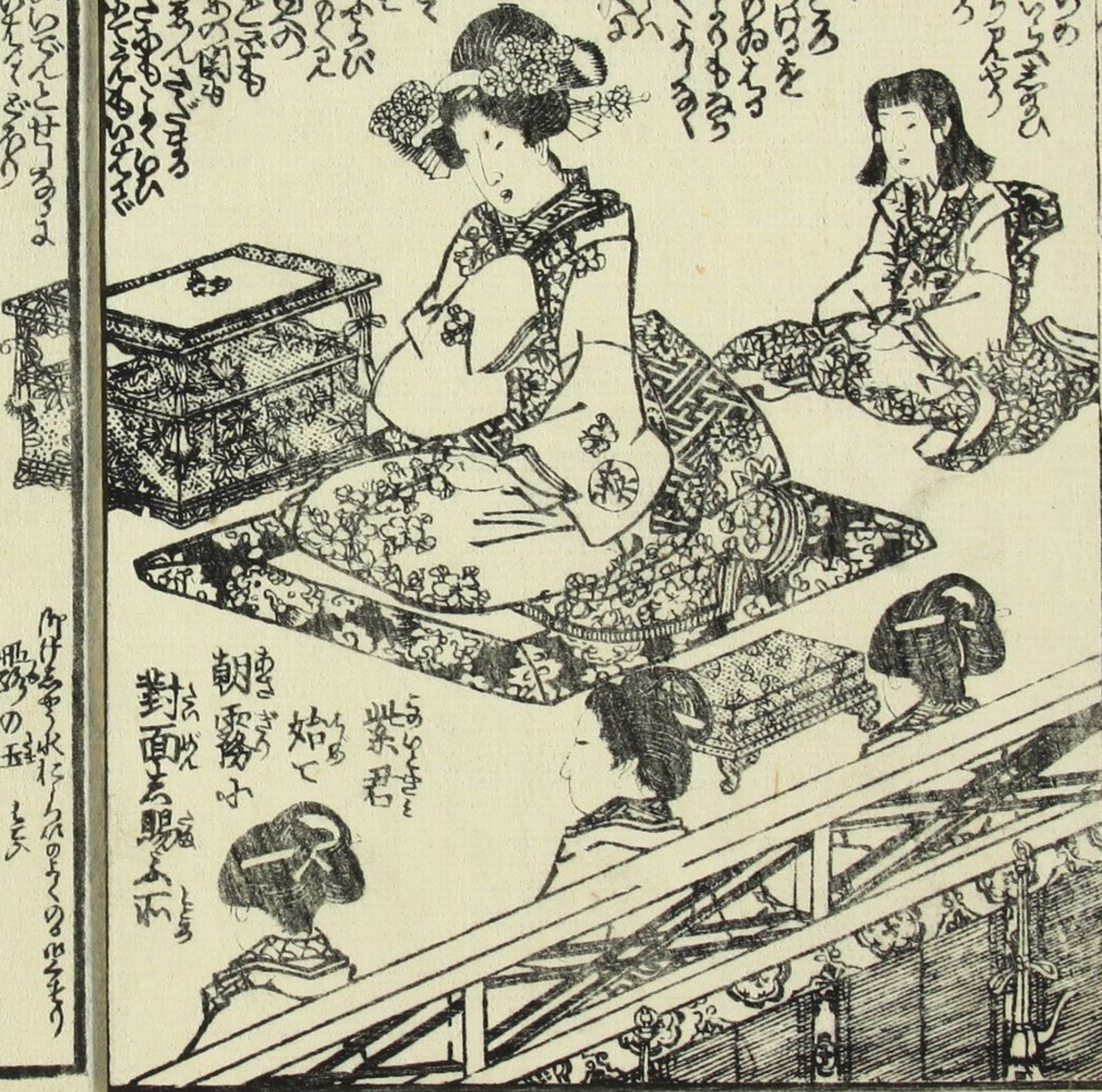


其申之部以而影 弓月西海
 若如 了了集以 弓月身

一筆 産財作
 一得 新豊國
 如 爲 爲
 乃 乃 乃
 乃 乃 乃
 乃 乃 乃



寄信の事... 氏仲の事... 子... 寄信の事... 氏仲の事... 子... 寄信の事... 氏仲の事... 子...

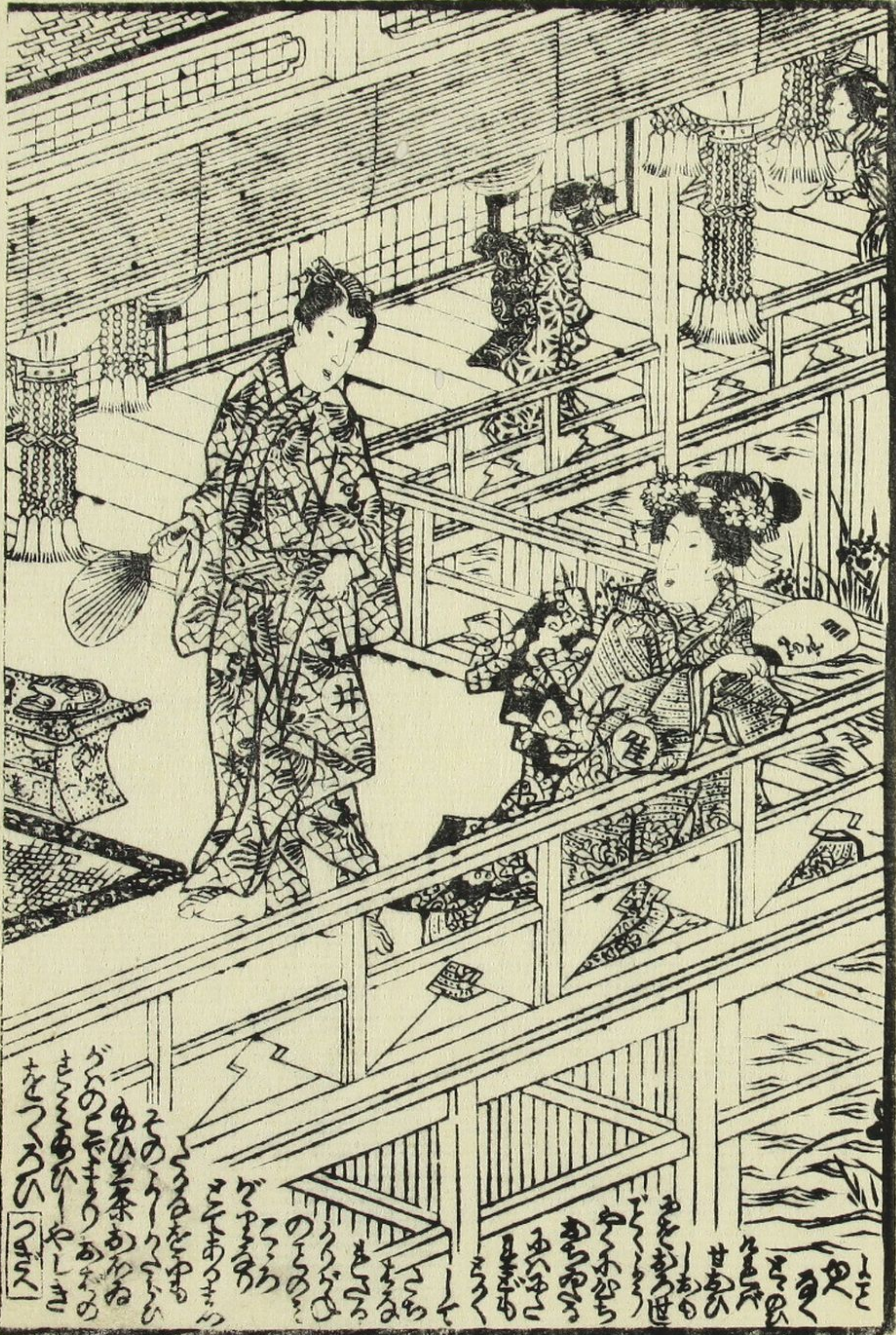


朝... 始... 對面... 此... 朝... 始... 對面... 此...

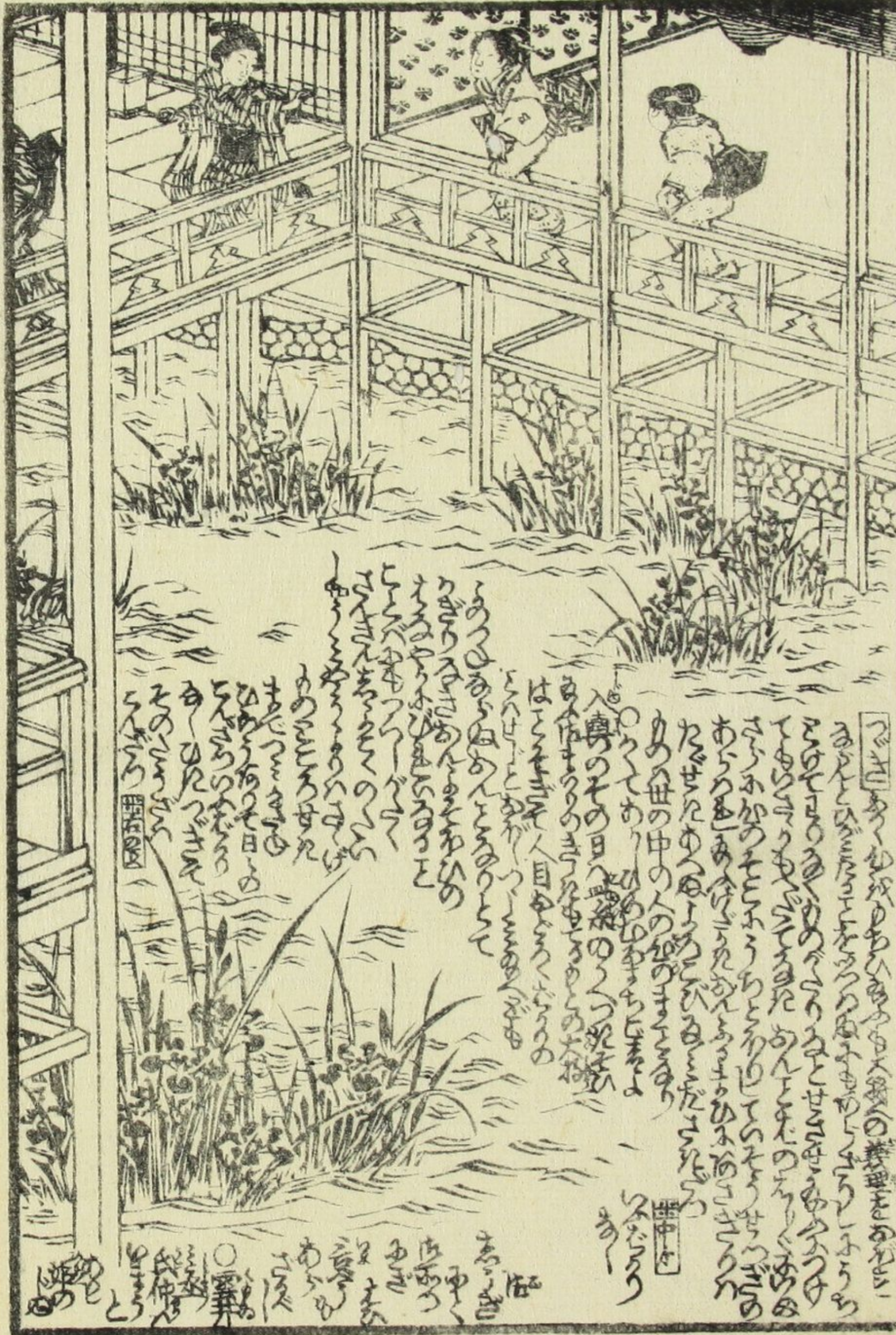
寄信の事... 氏仲の事... 子... 寄信の事... 氏仲の事... 子... 寄信の事... 氏仲の事... 子...



寄信の事... 氏仲の事... 子... 寄信の事... 氏仲の事... 子... 寄信の事... 氏仲の事... 子...



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

香壽丸
十四代
御元服
何足利
義隆公
と号

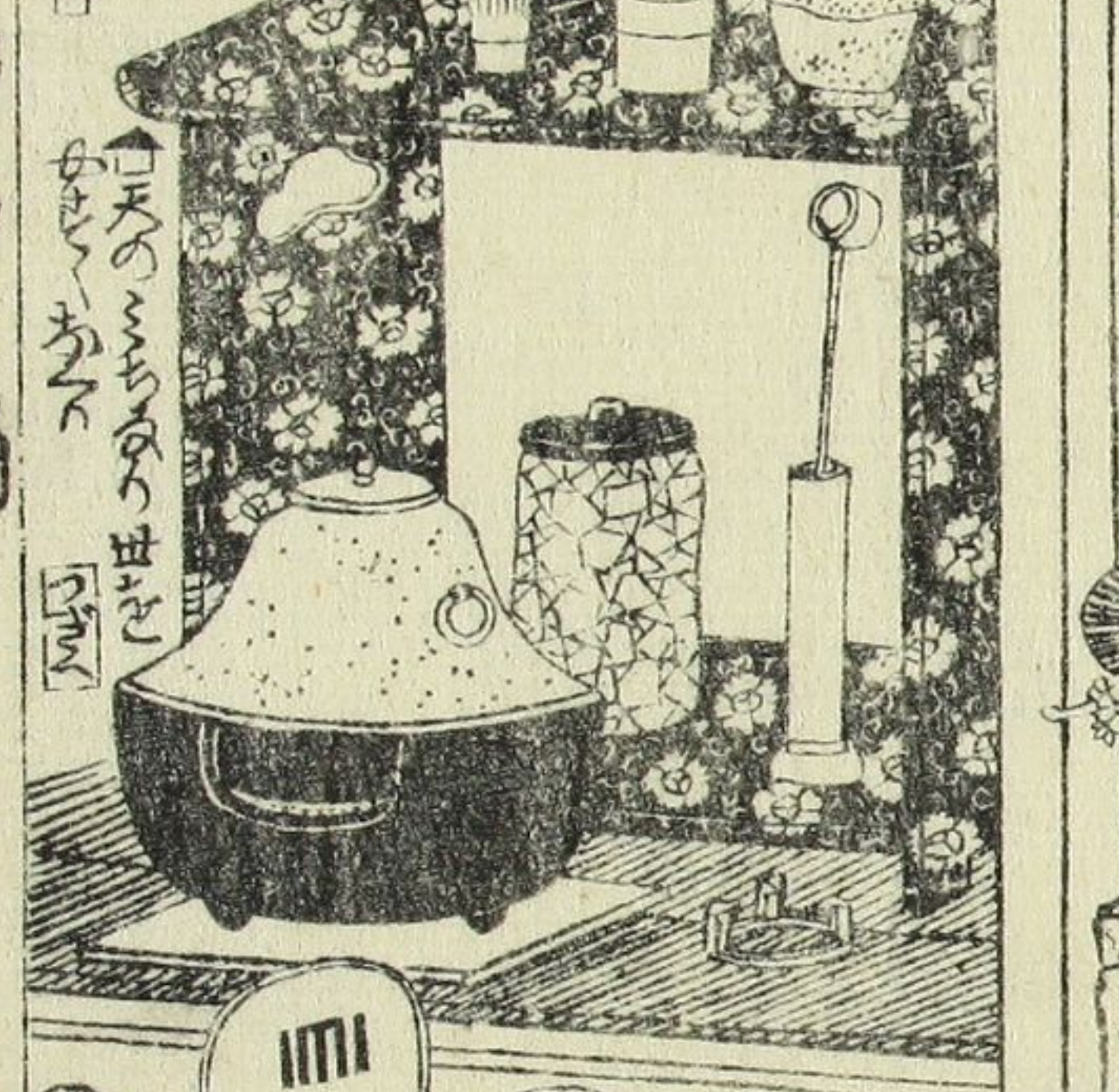


香壽丸の御元服の御式
 十四代御元服の御式
 何足利義隆公の御式
 と号

香壽丸の御元服の御式
 十四代御元服の御式
 何足利義隆公の御式
 と号



香壽丸の御元服の御式
 十四代御元服の御式
 何足利義隆公の御式
 と号

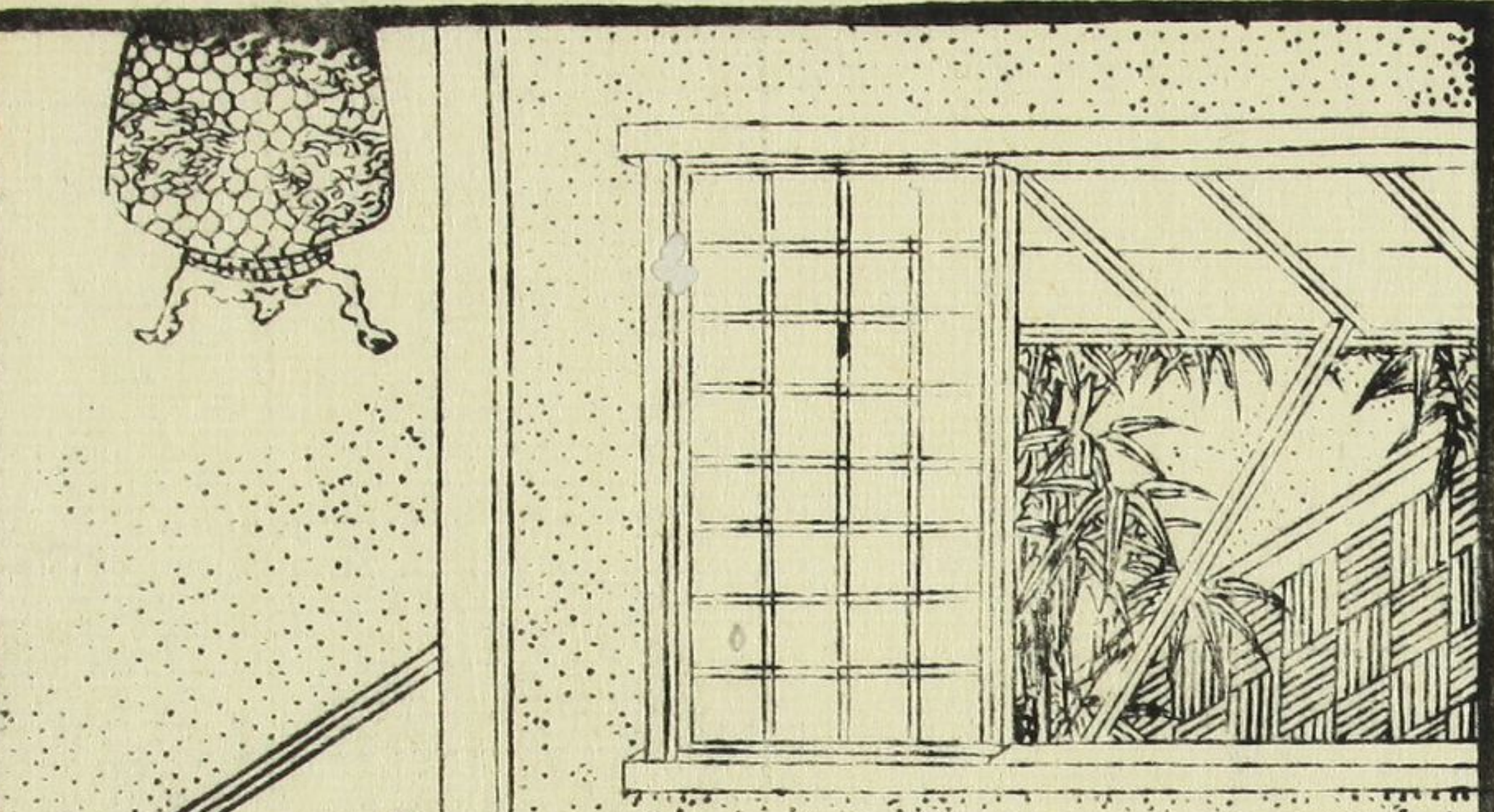


香壽丸の御元服の御式
 十四代御元服の御式
 何足利義隆公の御式
 と号



香壽丸の御元服の御式
 十四代御元服の御式
 何足利義隆公の御式
 と号

香壽丸の御元服の御式
 十四代御元服の御式
 何足利義隆公の御式
 と号



くちばしをうたぐりては
 さかたかたかたかたかたか
 せいせいのせいせいせいせい
 きんぎょのせいせいせいせい
 しんせいのせいせいせいせい
 せいせいせいせいせいせい

おんせんせいせいせいせい
 さくさくせいせいせいせい
 むねのせいせいせいせい
 さかたかたかたかたか
 せいせいせいせいせいせい
 きんぎょのせいせいせいせい
 しんせいのせいせいせいせい
 せいせいせいせいせいせい



おんせんせいせいせいせい
 さくさくせいせいせいせい
 むねのせいせいせいせい
 さかたかたかたかたか
 せいせいせいせいせいせい
 きんぎょのせいせいせいせい
 しんせいのせいせいせいせい
 せいせいせいせいせいせい

おんせんせいせいせいせい
 さくさくせいせいせいせい
 むねのせいせいせいせい
 さかたかたかたかたか
 せいせいせいせいせいせい
 きんぎょのせいせいせいせい
 しんせいのせいせいせいせい
 せいせいせいせいせいせい

豊國画

一筆斎作



相... 助... 白木の君...



筆雷 硯壽 柳枝 浄書

其由縁鄙俤

柳下亭種員作 一壽齋國貞画

自第八編十五編至末五章早春迄出版

此書才六編刊行の... 縁の... 柳下亭種員作... 一壽齋國貞画... 自第八編十五編至末五章早春迄出版

画雙紙東錦繪類大安賣 錦昇堂

照降町北側 惠比壽屋庄七

板元 錦昇堂 敬白

